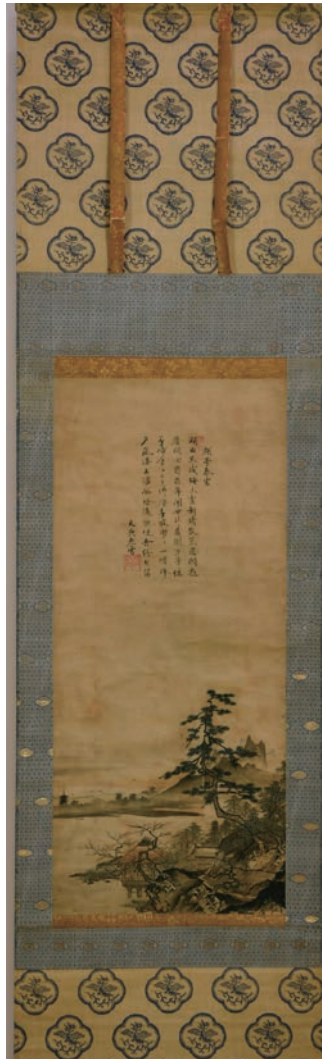


141. 湖亭春望図修理事業

公益財団法人吉川報効会吉川史料館 理事長 吉川 重幹

<修復前>

表具全図



本紙全図



山口県有形文化財紙本墨画
淡彩湖亭春望図保存修理事業

修理前

(全体) 縦 166,0cm 横 45,9cm

(本紙) 縦 83,9cm 横 36,3cm

修理後

(全体) 縦 166,5cm 横 48,1cm

(本紙) 縦 84,4cm 横 36,6cm

山口県

解説

本図は、印章や落款がないものの室町時代の絵師である雪舟の真筆とされ、江戸時代、狩野探幽が雪舟筆と鑑定をしている。画面上部の賛には「天與老雪」の名と「清啓」の朱文方印あることから臨済宗大鑑派の禅僧・天與清啓とわかる。天與清啓が正使を命じられた 1467 年の遣明使節の際、一行の中に雪舟がおり、二人に親交があったことも知られている。本図の制作時期は天與清啓が渡航前に山口に滞在していた 1465 年頃と考えられ、雪舟と名乗じる時期の制作とされている。制作期が限定できる山水図として、雪舟研究における貴重な作品である。

<修復後>

表具全図



本紙全図



修復業者

株式会社岡墨光堂

修復内容

本紙全体に折れや皸、黴痕のようなものが見られ、表装裂の端もところどころに剥げが生じており解体修理を行った。修理前に調査撮影をした後本紙を解体し剥落止めを行った。その後表打ちを行い、旧補修紙をすべて除去した。裏打紙は色調を考慮して選択し補彩を施した。表装裂は元のものを使用し掛軸装に再装丁した。今回の修理にあたり、桐製屋郎箱、桐製太巻軸、包裂を新調した。特記事項として、旧補修紙の除去による視覚的均一に懸念があったが関係者で協議した結果、全部除去とした。斑状に見える箇所については旧補修紙の厚みによる色彩の差であることが分かった。また、彩色材料の蛍光X線分析および分光分析を実施した。

山口県指定有形文化財
紙本墨画淡彩湖亭春望図 1 幅

修理報告書

令和 7 年度

株式会社 岡墨光堂

1. 文化財の概要

- (1) 種別 山口県指定有形文化財 絵画
- (2) 名称 紙本墨画淡彩湖亭春望図
- (3) 員数 1 幅
- (4) 指定年月日 平成 8 年 5 月 2 4 日
- (5) 所有者 公益財団法人 吉川報効会 (吉川史料館)
山口県岩国市横山 2 丁目 7-3
- (6) 総事業費 3, 2 4 2, 3 1 8 円 (税込)

2. 工期

自 令和 7 年 5 月 2 0 日
至 令和 8 年 3 月 1 3 日

3. 施工者

- (1) 修理施工者 株式会社 岡墨光堂
- (2) 施工場所 京都国立博物館 文化財保存修理所 第 3 修理室
- (3) 施工担当者 橋本 志保、吉村 多麻江
補彩担当者 佐藤 千晴

4. 作品の構造等

- (1) 品質形状 (p6, 修理前本紙全図、p7, 修理前表具全図)

紙本墨画淡彩 掛軸装

一文字風帯 金地唐草唐花文金襴

中 縁 浅葱地亀甲地金糸入龍文緞子

上 下 白茶地木瓜龍文緞子

軸 首 象牙頭切軸

- (2) 寸法

全体 縦 166.0 cm 横 45.9 cm

本紙 縦 83.9 cm 横 36.3 cm

※修理前寸法については、折れや波打ちが生じているため、おおよその数値とした。

- (3) 本紙組成

竹繊維 (自社調べ) (p8, 写真 1)

簀目: 36~42 本/3.0 cm (1 寸)

糸目: 1.0 cm (細)、1.7~2.0 cm (太)

- (4) 保存箱等

屋郎箱 (p9, 写真 2)

5. 修理前の状況

損傷状況

- ・本紙全体に折れが生じている（p10, 損傷写真 1-1）。また過去の修理により、総裏紙に直接折れ伏せが施されているが、その折れ伏せの横で新たに折れが生じている（p11, 損傷写真 2-1）。
- ・本紙の随所に縦方向および横方向の折れや皺がみられ（p12, 損傷写真 3-1）、亀裂へ進行している箇所がある（p13, 14, 損傷写真 4-1, 5-1）。
- ・虫害等によるとみられる料紙の欠失がみられる（p15, 損傷写真 6-1）。
- ・巻き解きによる擦れにより、一部において料紙表面が剥落している。
- ・黴痕のような付着物が確認される箇所がある（p16, 損傷写真 7-1）。
- ・表装裂の端部に損傷がみられる（p17, 損傷写真 8-1）。

6. 修理後の状況

（1）品質形状（p6, 修理後本紙全図、p7, 修理後表具全図）

紙本墨画淡彩 掛軸装

- 一文字風帯 金地唐草唐花文金欄（元のものを再使用）
- 中 縁 浅葱地亀甲地金糸入龍文緞子（元のものを再使用）
- 上 下 白茶地木瓜龍文緞子（元のものを再使用）
- 軸 首 象牙頭切軸（元のものを再使用）

（2）寸法

全体 縦 166.5 cm 横 48.1 cm

本紙 縦 84.4 cm 横 36.6 cm

（3）使用材料

材料名		製作者
補修紙	竹 70% 楮 30% 混合紙	高知県 江渕栄貫製
肌裏紙	楮紙（美濃紙）	岐阜県 鈴木竹久製 美濃竹
増裏紙	楮紙（美栖紙）	奈良県 上窪良一製 世界一
折れ伏せ紙	楮紙（美濃紙）	岐阜県 鈴木竹久製 美濃竹
中裏紙	楮紙（美栖紙）	奈良県 上窪良一製 世界一
総裏紙	楮紙（宇陀紙）	奈良県 福西正行製 福寅

（4）保存箱等

桐製太巻添軸（京都府 兵働知也製）、桐製屋郎箱（京都府 美術木箱小島製）
（p9, 写真 3）

7. 修理仕様

- ① 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。
- ② 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して本紙の旧裏打紙を除去する。
- ③ 浄化水にて本紙の汚れを除去する。
- ④ 膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。
- ⑤ 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。

- ⑥ 旧肌裏紙および旧補修紙を除去する。
- ⑦ 本紙欠失箇所にも補修紙にて補紙を施す。
- ⑧ 本紙の色合いにあわせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。
- ⑨ 表打ちの養生紙を除去する。
- ⑩ 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。
- ⑪ 折れ伏せを入れ、折れを直す。
- ⑫ 元の表装裂地に、肌裏と増裏を打つ。
- ⑬ 本紙と表装裂地を仮貼りする。
- ⑭ 仮張りされた本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻しをする。
- ⑮ 美栖紙にて中裏打を行う。
- ⑯ 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。
- ⑰ 補紙の箇所に補彩を行う。
- ⑱ 軸首は元使いとし、中軸、発装、紐等を新調し掛軸装に仕立てる。
- ⑲ 桐製太巻添軸及び、桐製屋郎箱を各新調し、羽二重の包裂に包み本紙を納入する。

8. 修理工程

(1) 調査・記録

- ・修理前の表装および本紙の状態を調査、記録し、損傷の状態等の写真撮影を行った。

(2) 解体

- ・軸木を掛軸装から外し、本紙と裂地をそれぞれ解体した(p18,工程写真 1)。
- ・旧肌裏紙を残し、旧裏打紙、旧折伏せ紙を可能な限り除去後、仮裏打ちを行った。

(3) 剥落止め

- ・絵具層が次工程として実施する水分を用いたクリーニングに耐えうる状態となるよう、濃度1～1.5%に調整した膠水溶液を塗布、浸透させ、絵具層の強化を行った。

(4) 汚れの除去

- ・本紙表面より浄化水を噴霧し、本紙の下に敷いた吸水紙に水溶性の汚れを吸着させる方法にてクリーニングを行った。

(5) 剥落止め

- ・絵具層の状態に合わせて、濃度 1～2%に調製した膠水溶液にて再度剥落止めを行った(p18,工程写真 2)。

(6) 表打ち

- ・布海苔水溶液を用い、養生紙にて本紙表面の保護を行った(p18,工程写真 3)。

(7) 旧肌裏紙及び旧補修紙の除去

- ・濃度を調整した布海苔水溶液を用いて、本紙表面に水分が浸透することのないよう留意し、旧肌裏紙及び旧補修紙の除去を行った(p19,工程写真 4・5)。

(8) 補紙

- ・本紙料紙欠失箇所および亀裂箇所に、本紙料紙組成と同様の竹繊維に、強度と柔軟性をもたせるため楮繊維を加えた混合紙にて、裏面より補修を施した(p19,工程写真 6)。

(9) 肌裏打ち

- ・本紙の色合いに合わせて染色した薄美濃紙を用い、新糊（小麦澱粉糊）にて肌裏打ちを行った(p20,工程写真 7)。

(10) 表打ち除去

- ・表打ちの養生紙を除去した。

(11) 増裏打ち

- ・古糊（新糊を 10 年程度涼暗所に保存した糊）を用い、美栖紙にて増裏打ちを行った(p20,工程写真 8)。

(12) 折れ伏せ入れ

- ・折れや亀裂が生じている箇所、および今後折れが発生しやすい箇所に、裏面より細い帯状に裁断した楮紙（3 匁相当）を接着することで補強した(p20,工程写真 9)。

(13) 裂調整

- ・元の表装裂地に、新糊を用い美濃紙にて肌裏打ちを行った。さらに本紙と各表装裂の厚みを揃えるために古糊を用いて美栖紙にて増裏打ちを行った。
- ・折れの発生する可能性の高い箇所に折れ伏せ入れを行った。

(14) 仮張り

- ・折れ伏せ入れを施した本紙と表装裂地を仮張りし、乾燥させた。

(15) 補彩

- ・本紙料紙が欠失した箇所に施した補修紙上に、周囲の地色を基調とした補彩を行った(p21,工程写真 10)。

(16) 付廻し

- ・乾燥させた本紙と表装裂を接合し、掛軸装の形に組み立てた(p21,工程写真 11)。

(17) 中裏打ち

- ・薄美栖紙を用い古糊にて中裏打ちを行った(p21,工程写真 12)。

(18) 総裏打ち

- ・宇陀紙を用い古糊にて総裏打ちを行い、仮張りし十分な乾燥期間をおいた(p22,工程写真 13)。

(19) 仕上げ

- ・元の軸首および新調した軸木、打込鐙、発装、紐等を取り付け、掛軸装に仕立てた(p22,工程写真 14)。

(20) 納入

- ・桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を各新調し、新調した羽二重の包裂に本紙を包み納入した。
- ・旧軸木、旧裏打ち紙等は旧保存箱に納入し別置保存とした。

9. 特記事項

(1) 過去に施された補填について

本作品の料紙欠失箇所には、補修紙により補填されている箇所と、されていない箇所が混在しており、補彩の色調および精度にも不均一さが認められた。そこで、損傷状況を示した図面を作成し(p23,特記写真 1)、補填箇所の除去の可否について、所有者、行政関係者、および有識者らと協議

を行った。その結果、旧補填はすべて除去し、新たに補修を施した上で補彩を行う方針とし、補填箇所
の視覚的な統一を図ることとした。

(2)本紙料紙にみられる斑状の濃淡差について

本作品では、本紙全体に斑状のシミのようなものが観察され、特に無地場において料紙の色調に
顕著な濃淡差があらわれていた。当初は経年による汚れと判断されたが、浄水を用いたクリーニング
を行っても、濃淡差の軽減には至らなかった。

修理施工に伴い、本紙に施されていた旧裏打紙をすべて除去し、本紙料紙のみの状態となったと
ころで、透過光等を用いた観察を行った。その結果、料紙は過去の修理により部分的に薄くなってい
ることで、料紙の厚みに差が生じ、料紙の厚い部分が相対的に濃くみえていることが判明した。なお、
修理中における料紙の状態については、各工程において写真撮影を行い記録した(p24,特記写真 2,
3、および参考資料 1～6)。

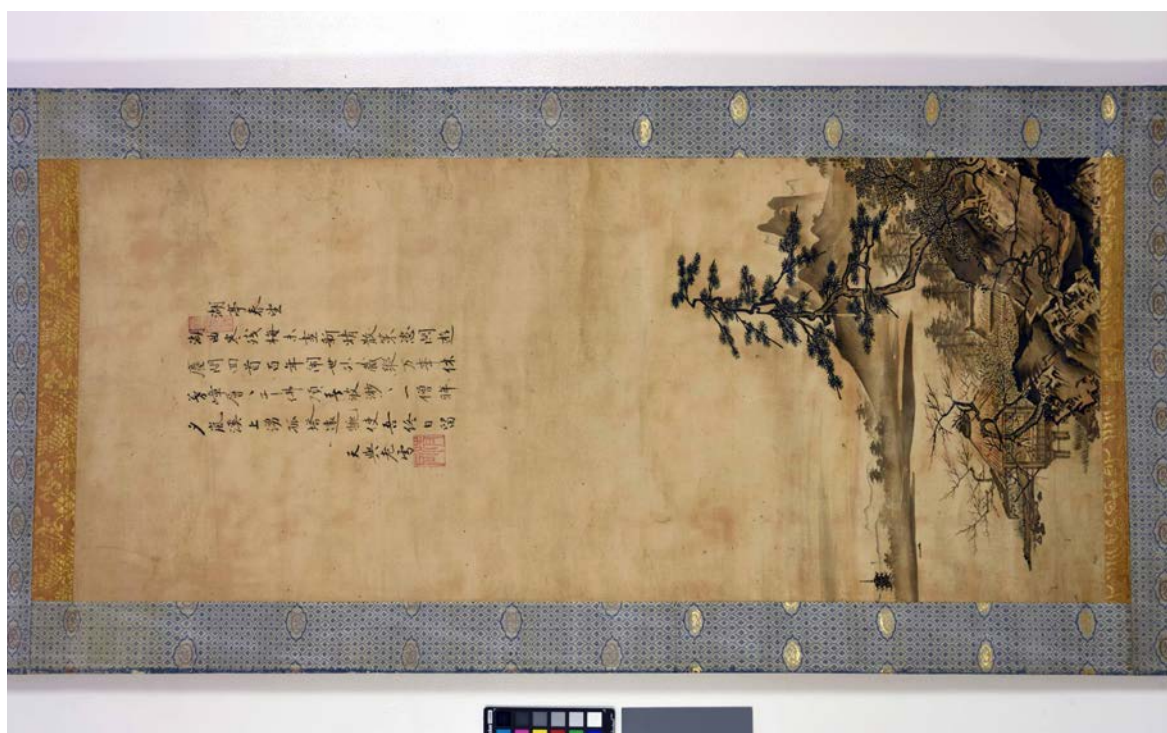
(3)彩色材料の光学調査について

修理に係る彩色調査として、顕微鏡を用いた写真撮影(p25,特記写真 4、および別添資料フォルダ
内 参考資料 7 表面顕微鏡写真データ)を行うとともに、京都国立博物館 保存科学室 降幡順子氏に
より非破壊的手法による蛍光 X 線分析および分光分析を実施した(分析結果の詳細は別添資料フォ
ルダ内 参考資料 8 参照のこと)。

その結果、梅の枝先端に点状に描かれた白色の花部分から鉛が検出され、鉛白が使用されている
可能性が示唆された。霞の部分は主に薄赤色、薄黄色、薄灰色によって表現されており、赤色部から
は水銀が検出されたことから朱の使用が、黄色部からは鉄が検出されたことから黄土の使用がそれぞ
れ考えられる。また赤色で表現されている梅の木、および岩肌からは鉄および水銀が検出されたこと
から、弁柄と朱の混色が使用されている可能性がある。さらに、山並みや松の枝等にみられる青色お
よび青緑色で表現された箇所については、藍による彩色と考えられる。



修理後本紙全図



修理前本紙全図



修理前表具全図



修理後表具全図



写真 1 纖維頭微鏡写真



写真 2 屋郎箱



写真 3 新調保存箱等



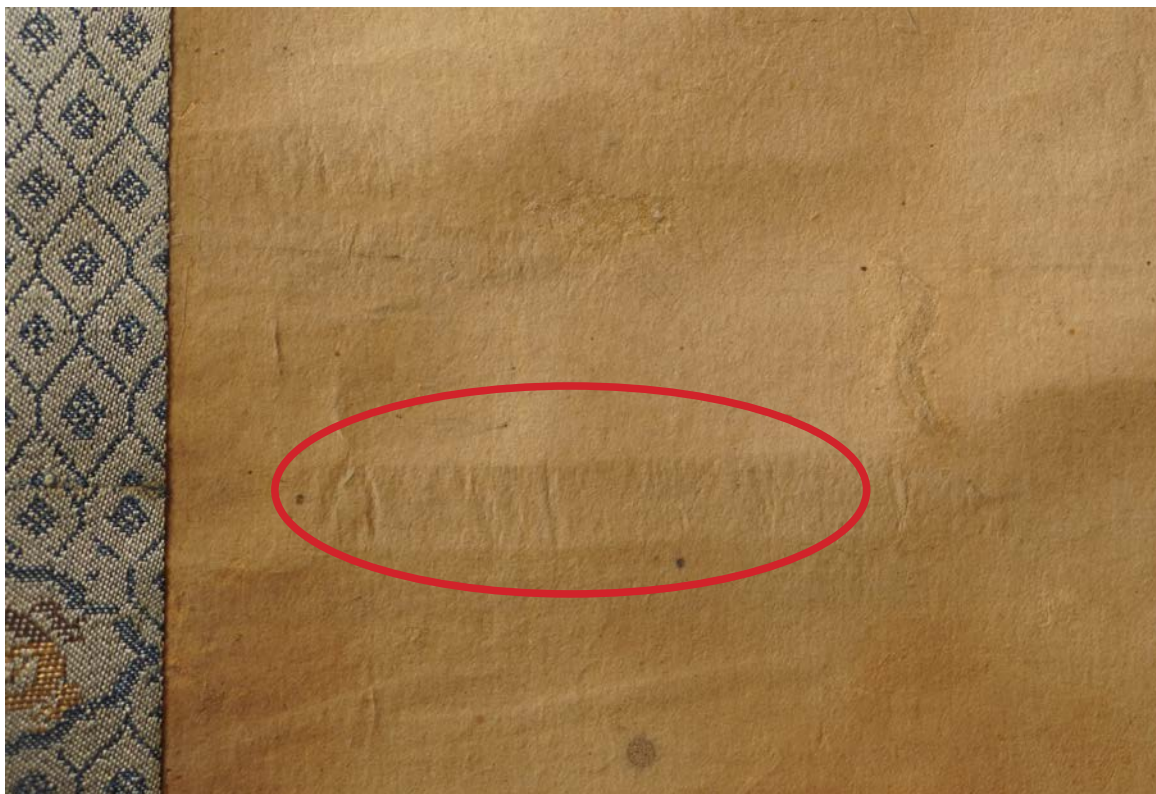
損傷写真 1-1 修理前

本紙全体に生じた折れ（斜光による撮影）



損傷写真 1-2

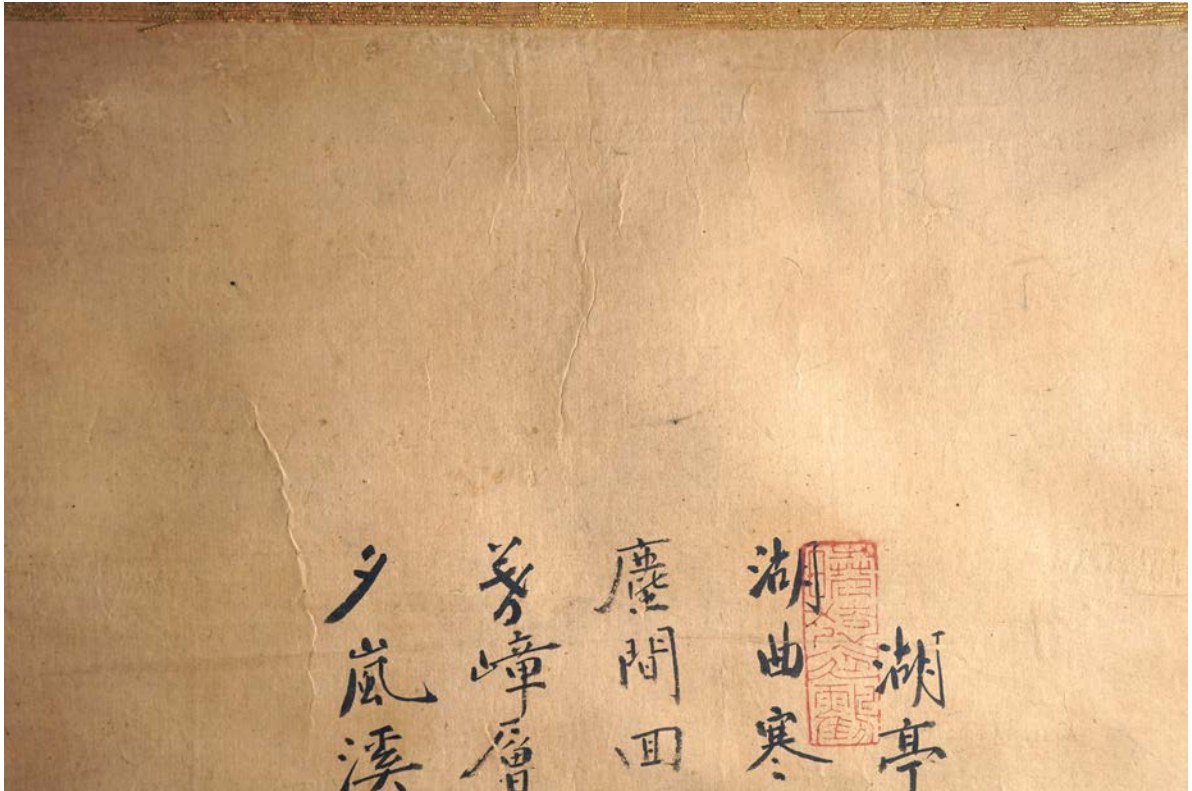
修理後



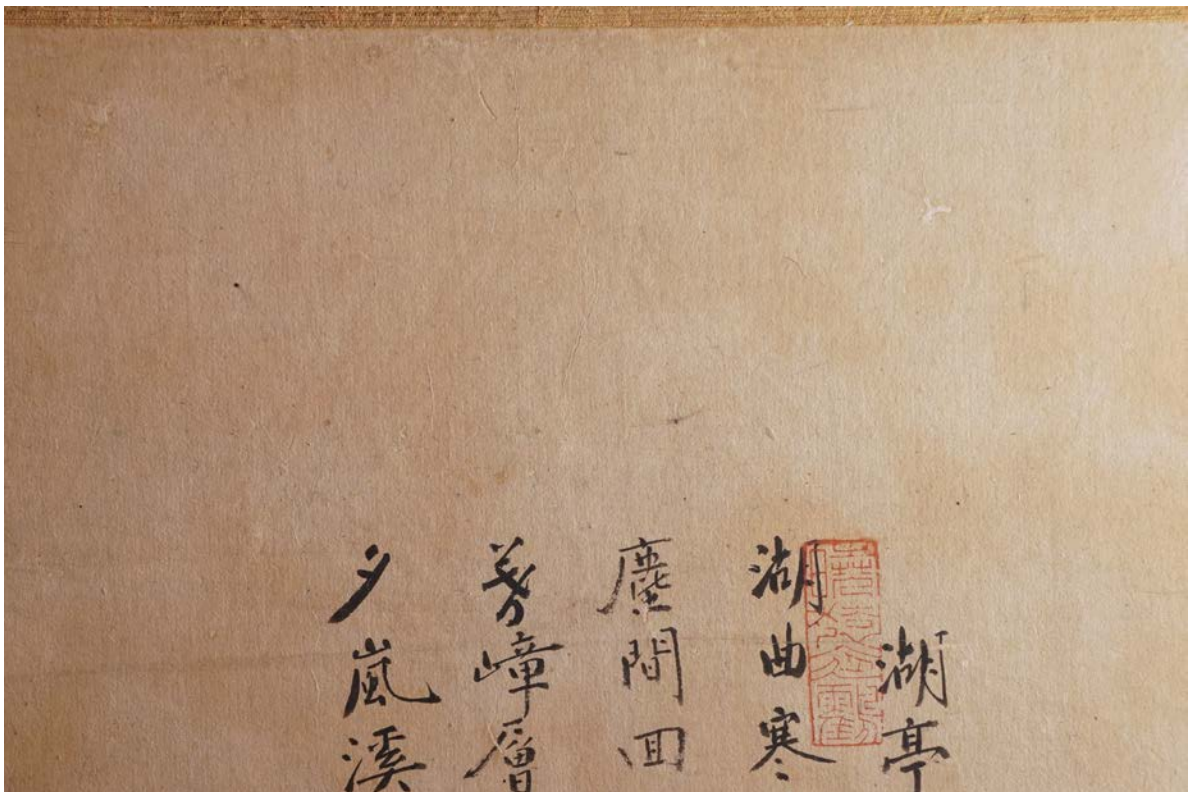
損傷写真 2-1 修理前
折れ伏せの横に新たに生じた折れ



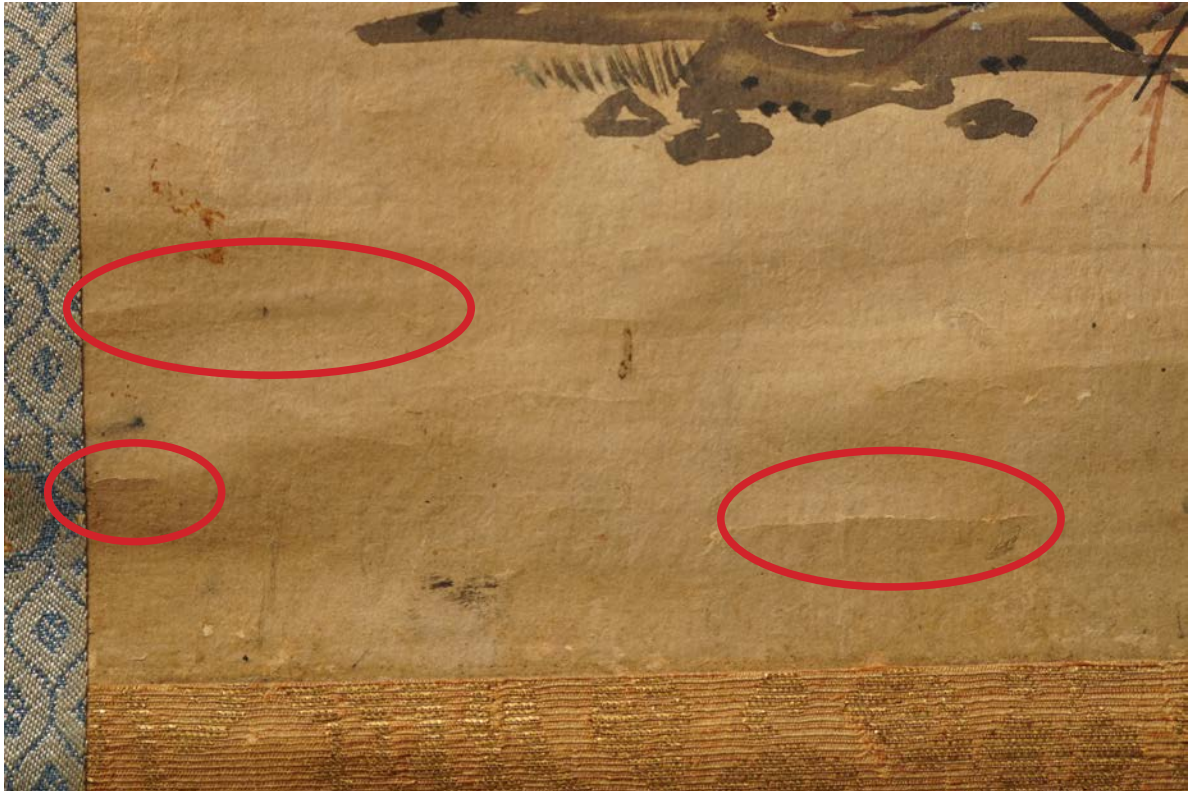
損傷写真 2-2
修理後



損傷写真 3-1 修理前
縦方向の皺



損傷写真 3-2
修理後



損傷写真 4-1 修理前
横方向の折れおよび亀裂



損傷写真 4-2
修理後



損傷写真 5-1 修理前
縦方向の折れおよび亀裂



損傷写真 5-2
修理後



損傷写真 6-1 修理前
本紙料紙の欠失



損傷写真 6-2
修理後



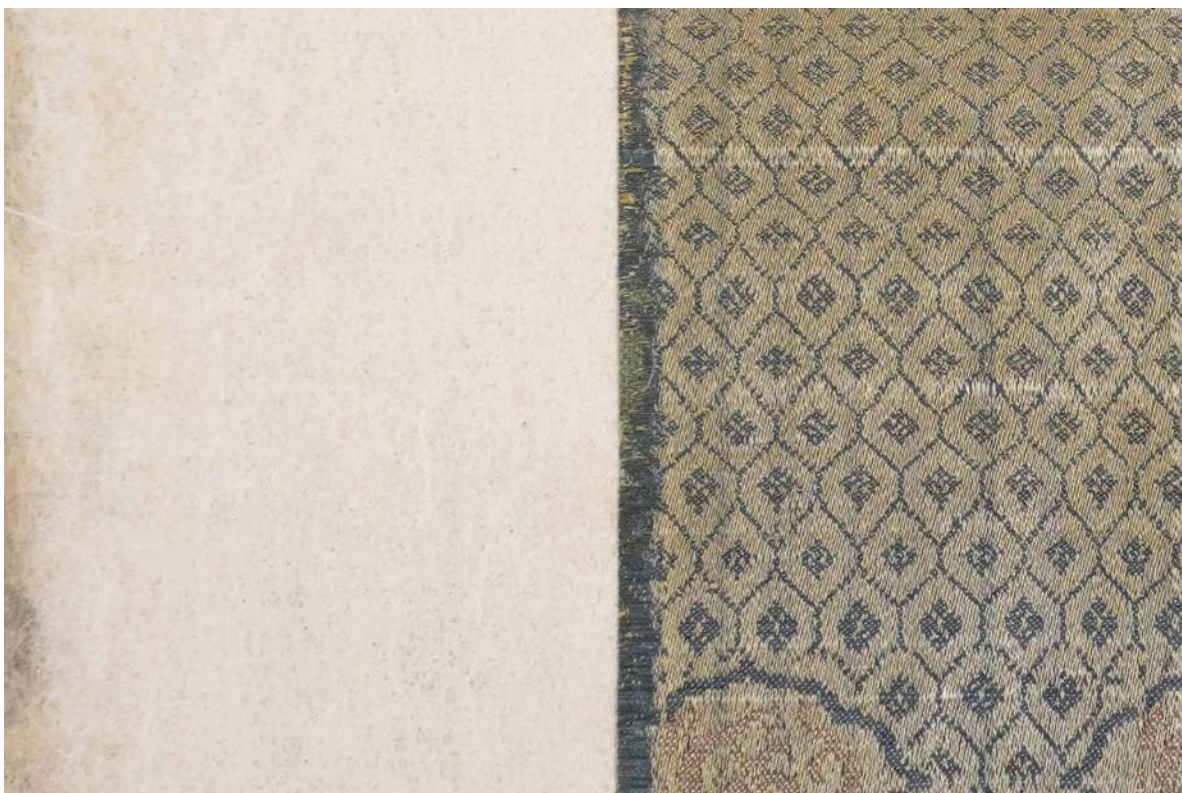
損傷写真 7-1 修理前
黴痕のような付着物



損傷写真 7-2
修理後



損傷写真 8-1 修理前
表装裂の擦れ



損傷写真 8-2
修理後



工程写真 1 解体



工程写真 2 剥落止め



工程写真 3 表打ち



工程写真 4 旧肌裏紙除去



工程写真 5 旧補修紙除去



工程写真 6 補紙



工程写真 7 肌裏打ち



工程写真 8 増裏打ち



工程写真 9 折れ入れ



工程写真 10 補彩



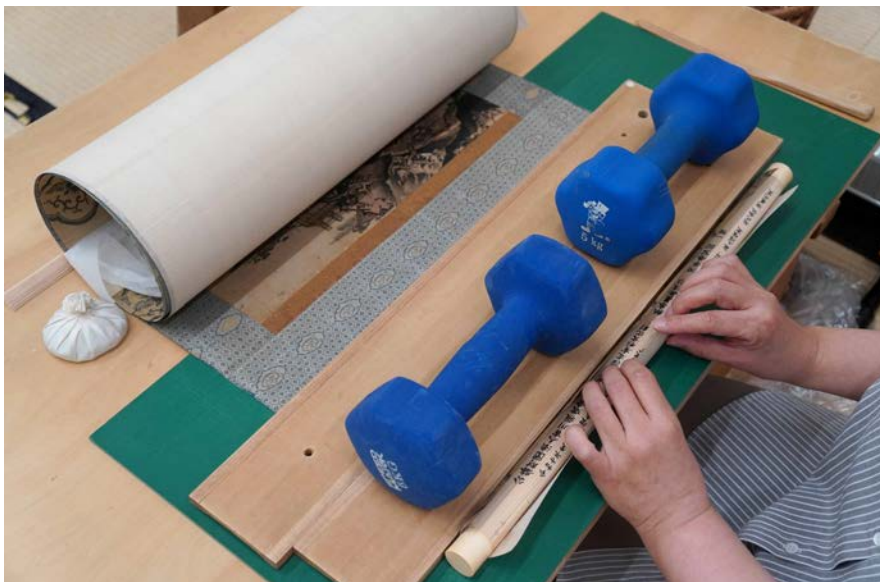
工程写真 11 付け廻し



工程写真 12 中裏打ち



工程写真 13 総裏打ち

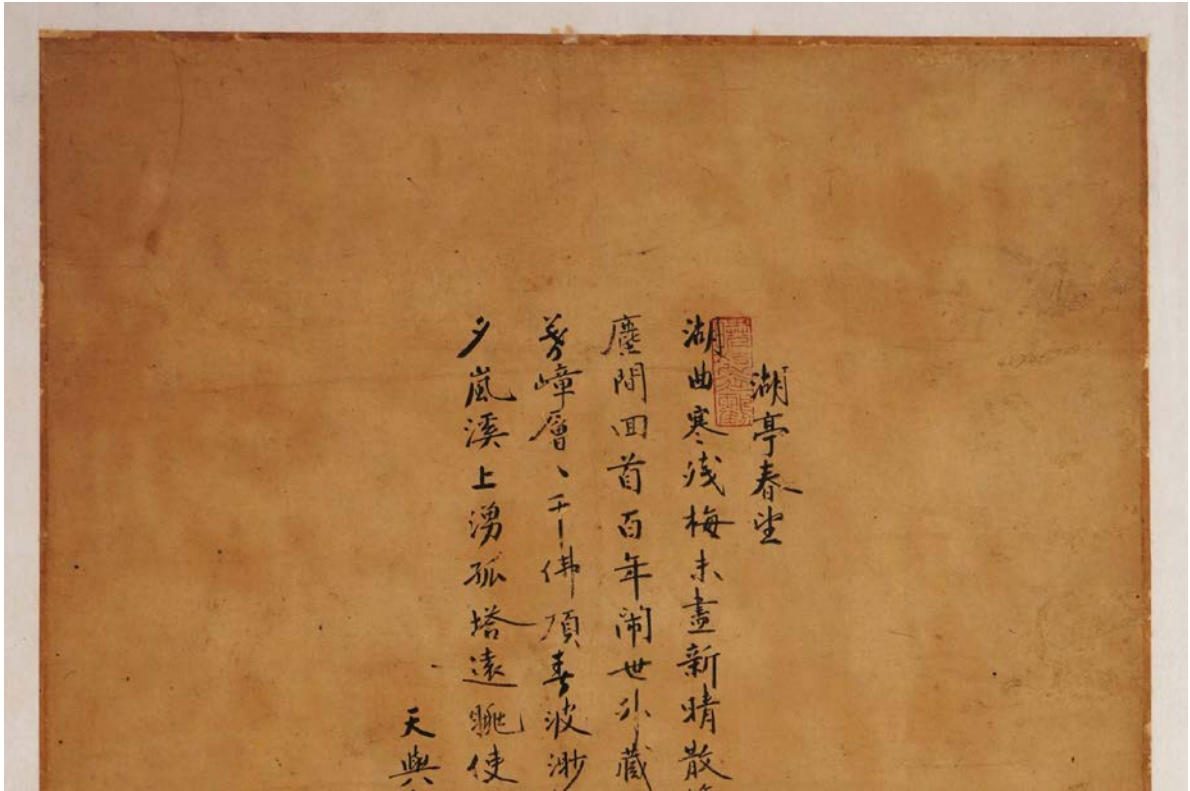


工程写真 14 仕上げ

■料紙欠失・亀裂箇所
 ■欠失箇所における補彩箇所

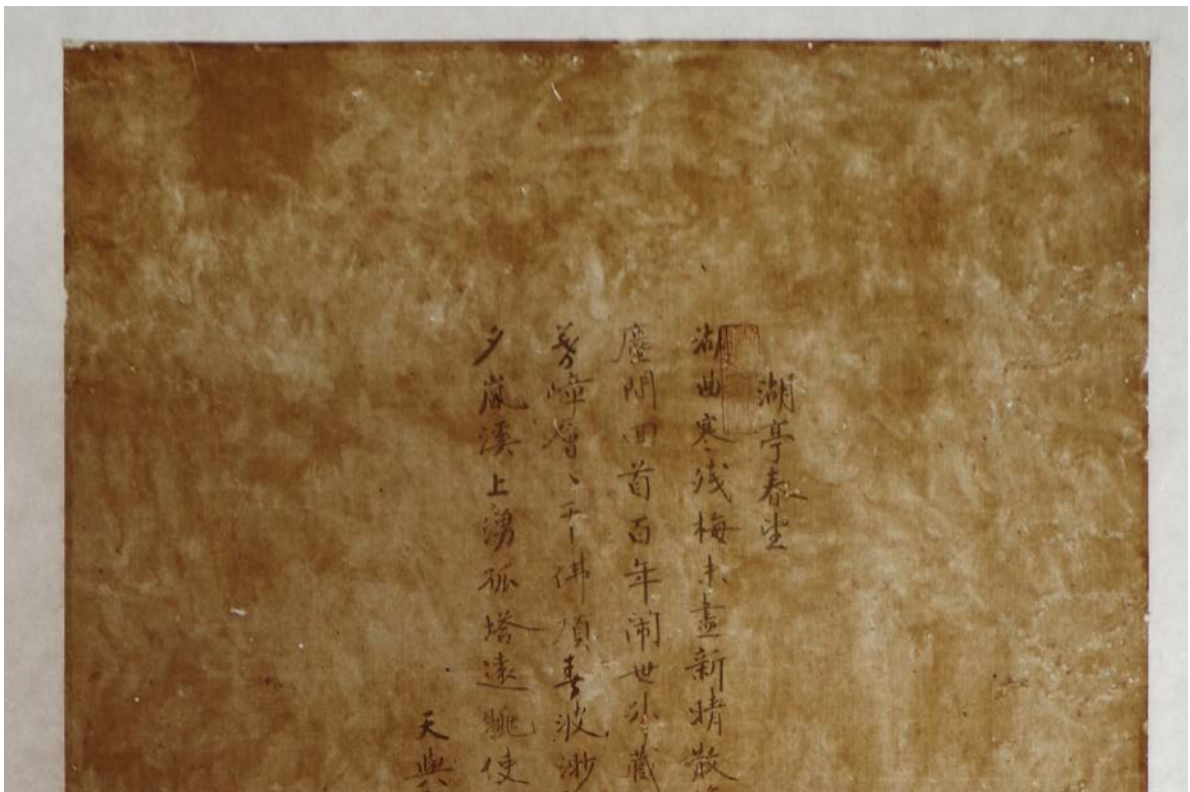


特記写真1 損傷図面



特記写真 2 修理前本紙

斑状にみとめられる料紙の色調の濃淡差



特記写真 3 修理中本紙

料紙の厚みの差による料紙の色調の濃淡差

白数字：顕微鏡写真撮影箇所
 赤数字：蛍光X線分析測定箇所
 青数字：分光分析測定箇所



特記写真 4

顕微鏡写真および光学調査箇所